

瀬戸内町ゼロカーボンシティ宣言の趣旨

産業革命以降、人類は、石油や石炭といった化石燃料をエネルギー源として利用してきた結果、大量の二酸化炭素を放出させることになりました。また、耕作や放牧などで森林を伐採してきたことにより、二酸化炭素を吸収する森林を減少させてきました。このような人間の活動が、地球温暖化の原因とも言われる大気中の温室効果ガスの濃度を増加させ、地球規模での気温上昇を招くこととなりました。

地球温暖化は、世界各地で異常気象や干ばつ・大規模森林火災を引き起こし、私たちの生活と経済に大きく影響を及ぼすことで、激しく日常社会を変動させています。さらに、世界の二酸化炭素排出量は今なお増加しており、地球温暖化がもたらす気象状況は、まさに非常事態に直面していると言えます。

そのような中、2015年にパリで開催された「国連気候変動枠組条約締約国会議」において、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃以下に抑える努力をする」こと、「できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と森林などによる吸収量のバランスをとる」ことが目標として掲げられました。

本町も世界の一員として、地球温暖化対策に対応するため、「瀬戸内町地球温暖化対策実行計画」を策定し、温室効果ガスを2030年度において、2013年度比40%削減することを目標としました。今後は、本計画をもとに町民一体となって、温室効果ガス排出量の削減目標の達成を目指していきます。

また、「奄美・沖縄」世界自然遺産の登録に向けて、本町も国や県、地域と共に取り組んでいるところであり、町民一人一人の行動が、地球環境に大きく影響を与える可能性があることを念頭に、豊かな自然と生物多様性を未来に残していく施策が必要不可欠だと考えております。

「第5次長期振興計画」や「瀬戸内町温暖化対策実行計画」をもとに、具体的な取組として、海洋資源の再生とブルーカーボンの促進や、再生可能エネルギーへの転換を推進していきます。

以上のことを踏まえ、本町も2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すため、「ゼロカーボンシティ宣言」を行うというのが趣旨です。